



豊橋市川崎町  
ふじ た な つ き  
藤田 菜月 (21歳)さん

## 「日々挑戦」

昨年の4月から駅前の美容室に勤めている菜月さんは今はスタイリストをめざして毎日頑張っています。美容学校の同期で別の美容室で働いている彼とは良いライバル。休日には近況報告をして切磋琢磨しています。営業を終えた後はカットなどの練習をする毎日で帰宅するのは深夜になってしましますが、これも一人前のスタイリストになるためと思えば疲れも吹き飛ばさそうです。「子どもの頃からス

タイリストになるのが夢でした。今、少しずつ夢が現実になっていくことが実感できて毎日楽しいです」とキラキラと瞳を輝かせながら話す菜月さん。趣味はネイルや旅行、料理をすることだそうです。「スペインや南国に行ってみたけれど、忙しくてなかなか行けません。でもいつかきつと行きたいです。料理は和食を作るのが得意で



撮影：向山梅林公園

す。他にもクッキーやババロアとかも作りますよ」

将来の夢を聞くと「美容師をしながら働くママになりたいです」と話してくれました。まだ少し先の話ですが、頑張る菜月さんならきっとなれそうですね。

## 柿の種

※柿の種  
「話のおつまみ」という意味の「コーナー」です。

### ◎大丈夫？

「若者の日本語が乱れている」いつの時代にも言われていることだと思う。言葉の乱れを指摘する世代の人たちも若いころには言われていただろう。日本語は時代とともに変化するものと思えば、それぞれの世代にそれぞれの言葉があると言える。しかし言葉としての最低要件である、相手に意思を伝えることができないのは「大丈夫」の使い方だ。辞書で調べれば「強くてあふなげないようす。確かだまがいないようす」とある。例えば転んだ人に「大丈夫ですか」と聞き、「大丈夫です」と答えるのが正しい使い方だ。少しおかしいと思うのは来客が「お茶にしますか、コーヒーにしますか」の問いに「大丈夫です」と答える場合。断りの言葉に使っていると思うのだが正しくはない。寛大な解釈をすれば「そんなに気を遣わなくても私なら問題はありません。私は大丈夫です」という意味だ。はっきり断ると角が立つから遠回しに断っている……ということだろう。相手に「ああ断っているんだな」とわかればいいのだが、では「私と付き合ってください」と言われ「大丈夫です」と答えるのはどっちの意味だろう。

明らかに間違っていると感じるのはクレジットカードで買い物をした時、店員が「一回払いで大丈夫ですか」と客に聞いたりすることだ。私ならそう聞かれれば「余計なお世話です！」と断ってしまう。ガソリンスタンドで「灰皿は大丈夫ですか」と聞かれれば「壊れていません」と答えるだろう。

改めて考えてみれば、ついつい「大丈夫」を安易に使ってしまっている。便利な言葉なのだが使い方を間違えば余計な誤解が生じる。本当に日本語は難しい。

最後に皆さんに聞きたい。このまでの文章、日本語の使い方大丈夫でしたか？